

「チーム荏崎」まちづくりミーティング

テーマ「災害に強いまちづくり」



本市では「減災力の強いまちづくり協定」を締結して今年度で10年を迎えます。この間、地域減災リーダーの育成や減災フォーラムの開催など様々な取り組みを行ってきました。

近年、各地で地震や水害など突然の自然災害により甚大な被害が発生していますが、本市においても昭和34年には河川の氾濫により、大きな被害を受けました。今年は、大きな被害をもたらした台風7号や伊勢湾台風の発生から60年の節目の年でもあります。災害はいつ発生するかわからないため、日頃から備えておくことが重要です。

そこで今回は、消防団をはじめとした地域の防災・減災対策を担ってくれている皆さんにお集まりいただき、荏崎市第7次総合計画の「災害に強いまちづくり」を推進し、市民の皆さんが安全・安心に暮らせる強いまちの実現のためご意見をいただきました。

荏崎市自主防災組織
連絡協議会 会長

水川 秋人さん



幸い最近身近に災害がないですが、減災という意識が浸透してきていることは感じます。とにかく自助が大事。自助・共助、次に公助だということ、まず自分たちのことは自分たちで守るという意識を植え付けてきたのはかなり大きな実績だと思います。

また、以前までは行政が何とかしてくれるものだという意識がすごく強かったですが、今は日頃から自分で考えておくものだという考えがかなり浸透してきています。災害がないことはいいことです、が、心構えと日頃の訓練は大切だと感じています。

荏崎市女性消防協力隊 隊長

松本 久美さん

私たちが子育て世代はどうしても子育てや家事に追われ、減災・防災に対する意識が低くなりがちな世代かなと

思っています。一方で、子どもや家族を守るためには私たちが自身が意識を高めることが必要だと感じたことが女性消防協力隊の発足につながっています。また、様々な理由で自治会に入っていない方もいらっしゃると思うのですが、そういう方はどこに助けを求めればいいのか不安に感じている方も多いのではないかと思います。同じ世代だからこそ伝えられることがあると思うので、それを活動に活かしていければと思っています。



災害ボランティア参加経験者

小林 兵武さん



私が訪れた岡山県の真備町は荏崎と地形的にそっくりな場所です。山沿いの住宅地でも1階は水没し、避難しようにも猛烈な水流で外へ出ると

ころではなく2階に逃げるし
 かなかったといえます。水の
 恐ろしさをボランティアでは
 つくづく感じました。今の災
 害は私たちの想像以上です。
 実際の水害ではみんなが集
 まれても避難路が決められな
 かったそうです。水でどこが
 道かわからず判断できなくな
 ります。ですから早く集まっ
 て災害になる前に逃げること
 が大切です。自分は大丈夫だ
 と思いたがるんですがそんな
 ことはないんです。

葦崎市社会福祉協議会
 事務局長

大木 純さん



実際に昨年の7月に台風12
 号が発生した際に要配慮者の
 ために避難所を開設しまし
 た。西日本豪雨災害があつた
 ことや事前に防災無線で福祉
 避難所の開設の情報が流れて
 いたことから全部で16名の方
 が避難されました。防災訓練
 の経験から、訓練どおりに行
 うことができました。
 物品は発電機や毛布など充

実していますが、訓練では食
 糧が課題となりました。市と
 連携して避難所運営をしてい
 きたいです。

葦崎市民生委員

児童委員協議会 会長

一木 芳恵さん

昨年の台風12号の際、民生
 委員として雨が強くなる前に
 要配慮者の方の避難をと思
 い、何人かに声を掛け、避難
 を希望した2名を避難させま
 した。雨風は強かつたものの
 それほどの被害がなくよかつ
 たですが、避難された方は安
 心して過ごせたようです。今
 回は避難所へ避難してもらい
 ましたが、地区でできる限りの
 備えもしています。地震の
 訓練が多かつたですが、沢の
 ある集落として水害に対する
 訓練も必要だと考えています
 のでもっと充実させたいです。



葦崎市女性消防協力隊副隊長

永田 桃子さん

私は熊本出身ですが、地
 元で大きな災害が起きたと

き、もしその場にいたらどう
 していたんだろうと想像し、
 小さいわが子をどう守るべき
 か考えたのがきっかけで取り
 組みを始めました。どうい
 う備えをしておけばいいかなど
 わからないことがあって不安
 に思っている方もいると思い
 ます。逆に、そこまで不安を
 感じていない方も多いのなか
 ということも感じていますの
 で、そういう方たちに意識を
 持ってもらえるよう活動がで
 きたらと思っています。



甲府地方気象台 地域防災官

井口 泰志さん



気象情報は実況ではなく予
 想です。大気の状態が不安定
 なときは難しいですが台風は
 ある程度予測できますので気
 象情報をもとに早めの判断を
 心がけてほしいと思います。

併せて、小さな川から大き
 な川まで危険の状態に応じて
 色分けして示した情報もあり
 ます。気象庁HPの洪水警報
 危険度分布というものでス
 マホをお持ちの方はGPS
 で位置情報を捕捉すると近く
 の川の状況もわかりますの
 で、避難時には参考にしてい
 ただきたいと思っています。
 また、警戒レベルは参考情
 報ですが、プッシュ通知で送
 るようにしていますので参考
 にして避難をしてください。

NPO法人
 減災ネットやまなし 理事長

向山 建生さん



雨がザーザー降ってからで
 は防災無線も聞こえず手遅
 れになります。「空振りになっ
 ても構わないので、市には避
 難準備情報を明るいうちから
 早めに出してもらおう。そして、
 逃げ遅れになる前に避難行動
 要支援者を社協や病院に早
 めに搬送して自分たちも避難
 する。」これからはそのしくみ
 をシンプルに作っていく必要

があると思いますので、自主
 防災組織が消防団などと連
 携してそこを強化していくこ
 とが大切だと考えています。

また、避難所はあくまで緊
 急時の避難場所として指定さ
 れているだけです。人間は応
 用力があるので、災害の状況
 に応じてどこへ逃げるのが安
 全か適切な判断が自主防災組
 織でできるように地域の減災
 リーダーを育成することもす
 ごく大事だと思います。

葦崎市消防団 団長

井出 秀実さん

減災フォーラム等は、全団
 員に出席を呼びかけるように
 しています。減災リーダーに
 ついても取得者は82名で全体
 からすると少ないですが、中
 には救命救急士だけ持ってい
 る人もいるので併せて受講す
 るよう取得を推進していきた
 いと思っています。

消防団では大雨時、警報が
 出たら集まって地域を巡回し
 ています。警報が消えるまで
 は待機するようにしています。

